平成１９年度

生徒用

「ゆうチャレンジ」（熊本県学力調査）

中学校　第２学年　国語

○問題用紙は４枚，解答用紙は２枚あります。

学校名	

年　　組　　号	
名　前	

熊本県教育委員会

1

今聞きとったことをもとに、次の問いに答えなさい。

(1) 中川さんは、取材前に左のようなメモを用意していましたが、実際のインタビューでは、このメモの予定にはなかった質問をしました。その質問の内容を書きなさい。

取材メモ

〔取材日時〕１２月１０日（月）
放課後
〔テーマ〕　「献立（こんだて）の工夫」
〔取材する人〕
学校栄養職員の先生
〔質問〕
① 献立づくりで一番工夫されていることは、何か。
② おすすめのメニューは何か。
③ 「食べる」ことについてのみんなへのメッセージ。

(2) このあと、あなたは中川さんたちと、給食便りの記事を書く前に、「インタビューをして一番心に残ったことと感想」を話し合います。まず、心に残ったことを、次に、そのことについての感想を発表するように書きなさい。

2

次の問いに答えなさい。

(1) 次の文の――線のひらがなを漢字に直しなさい。

① 小舟が海を漂う。　② 北風が吹く。　③ 昔のことを誇張して話す。
④ 長い距離を走ってみる。　⑤ お互いの利益を考える。
⑥ 輝かしいこうせきを残す。　⑦ 運動会のお知らせをかいらんする。　⑧ 適切なしょちをとる。
⑨ 大きな穴をほる。　⑩ 趣味で切手をしゅうしゅうする。

(2) 次の文の述語「つながる」に対応している主語（部）を、次のア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

ア みんなが　イ 「熊本にゆかりの作家」に　ウ 親しむのも、　エ 郷土の良さを　オ 見直すことに　つながる。

(3) 次の□には、例のように同じ読み方をし、共通する部分を持つ漢字がそれぞれ入ります。例を参考に、□の中に漢字を一字ずつ書きなさい。

（例）□定・実□・危□（けん）→検定・実験・危険

（問題）□神・□流・安□（せい）

(4) 次の文章は、松田さんが書いた職場体験の報告文の一部ですが、――線部は言葉のきまりのうえで、正しくありません。文の意味を変えないようにして、――線部を正しく書き直しなさい。

私は、三日間、保育所に職場体験に行きました。一日目に私が体験したのは、読み聞かせをしました。

(5) 寺本さんは、郷土の偉人（いじん）、布田保之助（ふたやすのすけ）についてクラスで発表するために、友達の松田さんの前で練習しました。次の会話は、「布田保之助は、通潤橋（つうじゅんきょう）をつくり、農業のしんこう（こうけん）に貢献しました。」という部分を聞いた松田さんとの会話の一部です。よく読んで、あとの問いに答えなさい。

（松田）　農業の「しんこう」という言葉がありましたが、これは漢字ではどう書くのですか。
（寺本）　「手をふる」の「ふる」と「きょうみ」の「きょう」で、「しんこう」と書きます。「物事を盛んにする」という意味です。
（松田）　聞いたとき、ちょっとわかりにくい気がしました。他のわかりやすい熟語で言いかえてみたらどうですか。
（寺本）　それでは、同じような意味の□を使って、「農業の□に貢献しました。」に言いかえたら、どうですか。
（松田）　そのほうが聞いている人にわかりやすくていいと思います。

① 寺本さんが最初に使っていた「しんこう」は、漢字ではどう書くとよいでしょう。正しいものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 進行　イ 振興　ウ 親交　エ 新港

② □に当てはまる二字熟語として最も適当なものを、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 成立　イ 全開　ウ 完成　エ 発展

3

わたしたちの住む熊本県にある阿蘇には、昔から多くの文学者が訪れ、その自然に感動し、すばらしい文学作品を多く残しています。山下さんは阿蘇を題材にした短歌について学習しました。次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

次の短歌は、夏目漱石の詠んだ短歌です。

ア　赤き烟黒き烟の二柱　真直ぐに立つ秋の大空

夏目　漱石

山下さんは、この短歌の鑑賞文を書くための準備として、次のようなメモを書きました。

【情景】○秋の大空。
　　○阿蘇中岳から赤いけむりと黒いけむりが、まっすぐに立っている。

【感想】○とても雄大な感じ。

山下さんは、このメモを見た鈴木先生から、次のようなアドバイスを受けました。

「情景を想像するときには、もっと色の対比や季節感について想像力を働かせてごらん。また、その短歌を詠んだとき、作者が何に感動していたのかも想像してみると、豊かな感想が書けますよ。」

そこで、山下さんは、このアドバイスを参考にメモの内容をふくらませて、次のような鑑賞文を書きました。

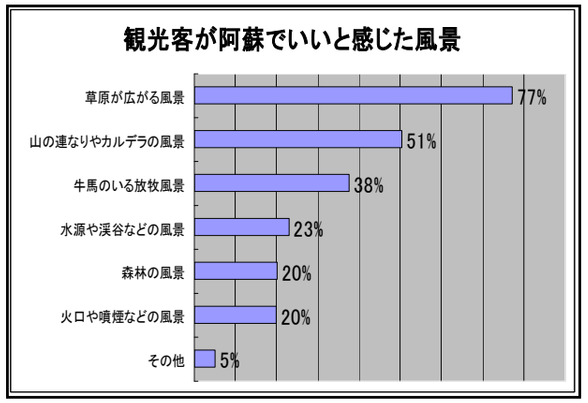
○　アの短歌について書きたいと思います。
　この短歌から次のような情景を想像しました。
○　赤い噴煙と黒い噴煙*がまっすぐに立ちのぼっています。そのうえ、秋の大空は、青く澄み切っていて、赤と黒と青の三つの色の対比が鮮やかだと思います。
　次に私の感想です。
○　赤い噴煙が激しく燃え立つ情熱、黒い噴煙は不安な気持ちを表わしていると思います。作者は、情熱と不安の間で悩みながらも、澄み切った秋の大空のようなおおらかな心でいたいのだと思います。作者の心情と情景が重なって、とてもスケールの大きい、雄大な感じのする短歌だと思います。

ほかにも、阿蘇を題材にした短歌には、次のようなものがあります。

イ　うす霧や大観峰によりそいて朝がほのさく阿蘇の山荘　与謝野晶子
ウ　のぼりゆく高原の秋の夕晴れにさやけく白く阿蘇の山みゆ　太田水穂
エ　大阿蘇の山の煙はおもしろし空にのぼりて夏雲となる　吉井勇

＊噴煙…噴き出す煙

(1)　次は、「観光客が阿蘇でいいと感じた風景」についてのアンケートの結果です。ここまで読んだ短歌やアンケート結果、写真を参考にして「阿蘇」という言葉からあなたが想像する風景を書きなさい。



＊渓谷…谷、谷間

（平成１３年草原景観に関するアンケート
調査結果・環境省）

草原が広がる風景

火口の風景

(2)　あなたも、鈴木先生のアドバイスや山下さんの鑑賞文を参考にして短歌の鑑賞文を書きましょう。

①　鑑賞文を書こうと思う短歌をイ～エの中から一首選び、記号で答えなさい。
②　あなたが選んだ短歌に描かれた情景を、色の対比・季節感を入れて、想像して書きなさい。
③　あなたが選んだ短歌に表された作者の感動や心情を、想像したうえで、自分の感想を書きなさい。

4

田中さんのグループは、総合的な学習の時間に熊本県の美術工芸品について調べています。田中さんは「肥後象がん」を担当して、次のような発表原稿を書きました。またそれにあわせて、パソコンのプレゼンテーションソフトを使って、スクリーンに映し出すスライドを作りました。あとに示しているのはその一部です。次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（①～⑩は段落番号を示しています。）

（農山漁村文化協会「江戸時代人づくり風土記４３」による。）

Ａのスライド

肥後象がんとは？
- ○鉄に金銀をはめ込んだ美術工芸品
- ○江戸時代から始まる
- ○刀の部品からアクセサリー、日用品まで
- ○国の「伝統的工芸品」

Ｂのスライド

美術工芸品と工業製品のちがい

	美術工芸品	工業製品
製法	（ ア ）	機械化
仕上がり	魅力がある	（ イ ）が生じる。

(1) Ａのスライドは、発表原稿のどの段落の内容を示したものですか。当てはまる段落番号をすべて答えなさい。

(2) Ｂのスライドは、まだ製作途中です。スライドの（　ア　）、（　イ　）と同じ言葉が入ります。それぞれに当てはまる適当な言葉を、文章中から書き出しなさい。

(3) 「肥後象がんのすばらしさをまとめて述べたい」とありますが、⑨段落までにある肥後象がんの良さを具体的に二つ以上取り上げて、あなたも肥後象がんのすばらしさを述べる文章を⑩段落に書きなさい。

(4) 田中さんは発表が終わったあとも、肥後象がんについて引き続き、調べてみたいと思っています。あなたならこのあと、さらにどのような方法でどのようなことについて調べますか。具体例を用いて簡潔に説明しなさい。

5

次の作品と文章は、熊本県出身の書家・武田双雲さんが書かれた「種」という作品と、その作品についての文章です。この作品と文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「種」

「この作品ができたきっかけ」

ＮＴＴから書道家として独立して、
三年くらいたった頃のことです。

それまでは、いろんなことがうまくいきませんでした。
しかし、ある時を境に何かがはじけたように次々と、
物事がうまくいくようなことが起こりました。

その時は何が原因かわからなかったのですが、
三年前くらいから蒔いていた小さな種が、
芽をふいていたことに気付いたのです。
その芽が連鎖反応を起こしているのです。

そしてそれは仕事のことだけでなく、

「今」存在している自分すべてにおいて言えます。

生まれてきてからずっとずっと
蒔き続けてきた種が長い時間を経ていろんな色の花を咲かせている。

だから　未来の自分がどんな花を咲かせていたいのかを考えたら、
今蒔くべき種が少しだけわかるような気がします。

そんな思いをこめて書き上げた書です。

双雲公式サイトhttp://www.souun.net/　より（一部改）

（問）「そんな思いをこめて書き上げた書です。」とあります。作者が、この「種」という書の作品にこめた思いを、あなたはどう受け止めましたか。また、あなたが「思いをこめて」字を書くのはどのようなときですか。次の条件にしたがって文章を書きなさい。

ア　二百字程度で書くこと。
イ　二段落構成で書くこと。
ウ　第一段落には、あなたがこの「種」という書の作品から受け止めた作者の思いについて書くこと。
エ　第二段落には、「思いをこめて」字を書くのはどのようなときか、具体的な体験や考えを入れて書くこと。（題名や名前は書きません）